

「継続的改善のためのIR/IEセミナー2019」  
(2019.3.8、九州工業大学戸畑キャンパス)

# アセスメント・ポリシーを運用している 大学への訪問調査結果について（中間報告）

橋本智也（四天王寺大学 I R ・ 戦略統合センター / 教育学部）

# アセスメント・ポリシー

## ① 速やかに取り組むことが求められる事項

### (大学)

大学においては、各大学の状況を踏まえ、例えば、以下のような取組を行い、学士課程教育の質的転換を図ることが求められる。

- (ア) 学長を中心として、副学長・学長補佐、学部長及び専門的な支援スタッフ等がチームを構成し、当該大学の学位授与の方針の下で、学生に求められる能力をプログラムとしての学士課程教育を通じていかに育成するかを明示すること、プログラムの中で個々の授業科目が能力育成のどの部分を担うかの認識を担当教員間の議論を通じて共有し、他の授業科目と連携し関連し合いながら組織的な教育を展開すること、プログラム共通の考え方や尺度（アセスメント・ポリシー<sup>のつと</sup>）に則った成果の評価、その結果を踏まえたプログラムの改善・進化という一連の改革サイクルが機能する全学的な教学マネジメントの確立を図る。

学長を中心とするチームは、学位授与の方針、教育課程の編成・実施の方針<sup>(※)</sup>、学修の成里に係る評価等の基準について、改革サイクルの確立という観点から

「学生の学修成果の評価（アセスメント）について、その目的、達成すべき質的水準及び具体的実施方法などについて定めた学内の方針。」

- ⑱ 学生の学修成果の評価について、その目的、達成すべき質的水準及び具体的実施方法などについて学内の方針（アセスメント・ポリシー）を定めたうえで、アセスメント・ポリシーを踏まえた成績評価についてのFDを実施していますか。
- |                           |    |
|---------------------------|----|
| 1 全学的又は全学部等で定めたうえで実施している。 | 2点 |
| 2 半数以上の学部等で定めたうえで実施している。  | 1点 |
| 3 実施していない。                | 0点 |

要件等： 学生の学修成果の評価（アセスメント）について、目的や達成すべき質的水準と評価の実施方法等について、授業科目レベル及び教育課程レベルで定めている場合が該当する。

達成すべき質的水準は検証（測定）できる内容であることを前提とする。

一部の科目のみで定めている場合や、方針を定めずに単に成果の把握のみをしているという場合は該当しない。

「アセスメント・ポリシーを踏まえた成績評価についてのFD」とは、個々の教員が、アセスメント・ポリシーに基づく教育課程レベル及び授業科目レベルの学修成果の評価・検証の仕組み等の理解を深め、適切な成績評価の実施を促すもの等とする。

基準時点： 平成29年9月1日～平成30年9月30日

根拠資料： アセスメント・ポリシー、FD実施内容のわかるもの、参加者名簿等

今後、策定・運用が  
進むと思われる

しかし



考え方や具体的な内容



共通理解に至っていない

# 形骸化への危惧

そこで

現時点で策定している大学

# 訪問調査

- 策定の過程での議論
- 運用でわかった困難

アセスメント・ポリシーを  
設計・運用していくための  
有用な枠組みを抽出したい

# 対象校の選定



先進的に策定・運用

or

平成30年度に策定

# 訪問調査協力校一覧

(別紙参照、大学名は伏せています)

訪問調査で  
尋ねたこと

# 設計 と 運用

# [設計]

- 策定の背景、プロセス
- 共通理解、同意形成の難所
- 具体的な評価項目、ツール
- 各種調査の新設／統廃合

## [運用]

- 年間スケジュール
- 学生／教職員の負担軽減
- 既存システムの活用／制約
- 評価報告書の作成

# 現時点までの 訪問調査の状況

## 先進的に策定

国立 1 校、私立 1 校

(3 月に + 私立 1 校予定)

## 今年度に策定

私立 2 校



訪問調査で  
見えてきたこと  
(設計・運用の勘所)

## [設計]

- D P との接続
- C P との棲み分け、連携
- 大学/学位プログラム vs. 学生個人
- 段階評価 vs. 記述式評価

## [運用]

- 各レベルでの実施内容・方法・時期
  - －学生／担任
  - －学部学科
  - －大学全体

[運用] (各レベルの実施内容・方法・時期)

- 学生／担任

- －学生の自己評価、フィードバック

- －既存システムの改修

- 入力負担の軽減

- 可視化項目の定義の明確化

[運用] (各レベルの実施内容・方法・時期)

- ・学部学科、大学全体

- 評価総括と次年度での改善

- 委員会など組織役割の整理

学内での策定・運用の  
参考情報として活用

アセスメント・ポリシーの策定と運用



I Rの活用方針、使用項目の明確化・体系化



I R活動の定着が進むかもしれない

# 今後の計画



訪問調査の結果を  
踏まえて

アンケート調査を実施予定

# 謝辭

本調査は、一般財団法人大学IR総研による  
「大学IRの充実に資する研究または実践活動（平成30年度）」（研究代表者：橋本智也）を受けて行っています。

「継続的改善のためのIR/IEセミナー」  
(2019.3.8、九州工業大学戸畑キャンパス)

# アセスメント・ポリシーを運用している 大学への訪問調査結果について（中間報告）

橋本智也（四天王寺大学 I R ・ 戦略統合センター / 教育学部）